

野郎どもと女たち (1955)

GUYS AND DOLLS

メディア 映画

ジャンル ミュージカル コメディ ロマン스

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 150分

初公開日 1956/04/07

公開情報 MGM

【解説】

ブランドとシナトラが組んで粋なお父さんを演じるミュージカルというだけで嬉しくなってしまう、デイモン・ラニヨン原作の短篇の舞台版を、マンキウィッツが映画用に仕立て直した作品。詞・曲はF・レッサーで、これといって秀でた歌はないが、ブランドが自分の声で可愛く歌う数曲は、その男の艶気でぐっと聴かせる。

サイコロ賭博じゃNYーと謳われるネイサン（シナトラ）が資金不足で賭場が開けず、男の沽券をなくそうという時。ヴェガスから帰った賭け事天才、スカイ（ブランド）と二千ドルを張って、救世軍の娘サラ（シモンズ）を一晩デートに誘えるかで賭けをする。救世軍のおエラ方も舌先三寸でうまく丸めこみ（何しろ聖書の知識はセーラより豊富）、彼女をハヴァナまで連れ出すデートも豪華版。ミルクと称して出されたラム酒にしこたま酔ったサラは、クラブで大いに酒乱ぶりを見せつける（この場面でのダイナミックな群舞は見もの。振付はマイケル・キッド）。やがて、恋を語らう二人だが、約束通りその夜のうちに彼女を帰したスカイが、救世軍本部で見たものはサイコロ賭博に興ずるアンちゃんたちが、ガサ入れに来た警官たちから脱兎のごとく逃げるさま。騙されたと怒るサラたちに“明日の晩12時までには悪党ダースを集会によこす”と誓ったスカイはネイサンがはめられている地下室の賭場に入り込んで、恋を賭けた一世一代の大バクチに出る。一方、14年越しの婚約者の踊り子アデレーン（舞台でも同じ役を演じ好調のV・ブレイン）をはぐらかし続けたネイサンも、警察の目をゴマかす嘘がヒョウタンから駒となり、ついに年貢を納める気になって、スカイたちと合同のタイムズ・スクエアでの挙式がフィナーレに。とにかく、野郎ども二人が水を得た魚のようにいなせに決めて、それは男性専科のミュージカルと呼びたいカッコよさである。

【クレジット】

監督	ジョセフ・L・マンキウィッツ	Joseph L. Mankiewicz
製作	サミュエル・ゴールドウィン	Samuel Goldwyn
原作	デイモン・ラニヨン	Damon Runyon
原作戯曲	ジョー・スワーリング エイブ・バロウズ	Jo Swerling Abe Burrows
脚本	ジョセフ・L・マンキウィッツ	Joseph L. Mankiewicz
撮影	ハリー・ストラドリング	Harry Stradling Sr.
音楽監督	ジェイ・ブラクトン	Jay Blackton
作詞作曲	フランク・ローサー	Frank Loesser
音楽	シリル・モックリッジ	Cyril Mockridge
出演	マーロン・ブランド フランク・シナトラ ジーン・シモンズ ヴィヴィアン・ブレイン	Marlon Brando Frank Sinatra Jean Simmons Vivian Blaine

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています。

データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。

Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

スタビー・ケイ

Stubby Kaye

ヴェダ・アン・ボルグ

Veda Ann Borg